



# つながれ KENPOKU

令和5年8月21日 発行

今回は、福島市学習センター訪問の第3弾として吉井田学習センターと渡利学習センターの取組についてお伝えします。

## 福島市学習センター訪問

7月28日 吉井田学習センター 7月31日 渡利学習センター

### 【吉井田学習センター】

### 子どもと地域の居場所づくり



地域全体で子どもたちの成長をいかに支えていくかが課題となっていますが、NPO法人ビーンズふくしまなど地域団体と連携し多世代交流やつながりづくりをしています。子どもたちの居場所の確保と学習支援のための「よしいだ子ども寺子屋」から「よしいだ子どもキッチン」へ新たな展開をしています。

また、方木田稲荷太鼓の伝承のため、夏休み中に体験会を開くなど地域の伝統文化に子どもたちがふれあう場を提供しています。吉井田学習センターは、地域の人の顔が見える関係を築きやすい学習センターを目座して取り組んでいます。

### 【渡利学習センター】

### 事業を通じた人と人とのつながりづくり



渡利学習センターは、コロナ禍の令和2年11月に新学習センターとしてオープンしました。館内はユニバーサルデザインが取り入れられ、誰でも快適に利用することができます。利用団体や利用人数も増加しているため、「わたり青空図書館」や「ぶらっと談話室」「体験入門講座」等、気軽に訪れた地域の人が、様々な人とつながる場となるよう、職員全員で新規事業のアイデアを出し合いながら積極的に取り組んでいます。

7月中に5つの福島市学習センターを訪問いたしました。それぞれのセンターでの取組をお聞かせいただき、日頃、職員の皆様が、利用者の皆様のために、地域の皆様のために頑張っておられる様子に触れることができました。「つながれ KENPOKU」を通して、素晴らしい取組を共有することで、公民館運営や事業企画のお役に立つとたいへん嬉しいです。

